

# ジャグパル

JugPal

2000年9月1日 第9号



## 特別寄稿

【Gandini Jugglers とミレニアム ドーム】

by Tomoko TOKUSHIGE

### 1. Gandini Jugglers の仕事を得心しつ

1999年9月、GandiniとSergei Ignatovのワークショップが、一週間集中してロンドンで行なわれました。その半年ほど前に、Gandini Juggling Projectのビデオを見て彼らのジャグリングに大きな興味を抱いていた私は、喜んで受講することを決めました。

同じ頃、Gandini Juggling Projectがミレニアムドーム(1)で一年間一緒に仕事をするジャグラーを募集している、というポストがrec.juggling(2)にありました。

彼らのワークショップが、パフォーマーの創造的な部分や個性を強く刺激するものだったこともあり、私の脳味噌も興奮していたのでしょおそらく。

いつになく積極的な気持ちでその仕事に参加したいと(恐れ多くも)申し出てみたところ、ラッキーなことはいい返事をもらうことができました。

### 2. リハーサル

クラブ、リング、ボール、それぞれのショーを創るために、去年の11月1日から2か月間リハーサルを行いました。

毎日、朝9時から午後5時まで、みっちり。(水曜日は午後1時まで)さすがに日曜日はお休み。Gandini Juggling Projectの振り付けを担当しているジル・クラークのダンスの練習もありました。

核となるメンバーを中心にルーチンを作りつつ、その練習を全員でやってみる。個人個人でパスのタイミングや、ポジションの把握など、少しずつ違う。それをお互いに知り、修正したり補強したり。

12月の中頃、大きな二つの3階建ての鉄筋(プラットフォームと呼んでいる)を使ったクラブのルーチン(20分くらい)、複雑なポジションの変化を持つ、多くのパターンを含んだリングとボールのルーチン(それぞれ10分くらい)をほぼ完成させました。



6人で行う20分程のショーのルーチンを作って覚えるのに、2か月はとて短く、毎日帰るとぐたぐたでしたが、寝る前に必ず頭の中でその日に覚えた分を復習しました。私は日記をつけて、何とか消化していきました。

### 3. ミレニアムドームでのオープニングセレモニー

2000年になる前夜12月31日に、エリザベス女王を迎え大きなセレモニーがありました。Gandini Jugglersのドームでの初のパフォーマンス。

キャットウォークという中心に伸びる細長いステージ上で、ドーム中に響き渡る音楽とライトの中、12人の大きなパッシングのパターンを披露しました。

細いステージの両側すぐ下に観客がいて、絶対に落とせない。あれほどの熱気と興奮と緊張の中で、それはとても印象的なジャグリングの瞬間でした。

その日のショーが終わった後、ドームの中で、観客と私達パフォーマー全てが新年を祝い、シャンパン、ワインで酔っぱらい大騒ぎとなりました。

#### 4. ドームでの仕事

12人のジャグラーを、6人ずつの2チームに分け、2週間交替でドームで働く。2チームが同じショーをするために、2人が全く同じルーチンをおぼえる。

つまり、六つのキャラクターがあって、ひとつのキャラクターを2人で担当する。(全く同じで行っても、完全に振り付けされているわけではないので、違う部分はでてる。)

ドームでの1日のスケジュールは基本的に次のようになっています。

1. 13:00 Walkabout 3人
2. 14:00 Club's show "Platform" 6人
3. 16:00 Cube 2人, Walkabout 4人
4. 17:15 Rings & Balls show 6人
5. 18:45 Walkabout 3人

すべて30分間で、最初と最後のプログラムは違う3人で担当します。

#### 5. 仕事の中身

ドームの中は、とても色が多く、音も多く、人々の移動も早く、私達のパフォーマンスは多くの変更をせざるを得ませんでした。

ドームの完成がぎりぎりだったこともあり、どんな風にショーを行うのかを前もって想像するのはとても困難だったと思います。

ひとつの壁面を背にしてショーをやったり、360度から見られる形でショーをしたり。

リハーサルで作ったルーチンを元に、新しくドームに合わせてショーをやるのですが、それはすごく大変な作業でした。少しずつ力を抜いて即興的に対応しつつチームとしてまとまるのです。

ショー以外に、Walkabout(ウォークアバウト)といわれるものもやります。指定された範囲を適度に移動しながら、見る人々の気持ちになるべく沿って、即興的に3人あるいは4人のチームとしてパフォーマンスをする、というものです。

Cube(キューブ)というのは、一辺2メートルくらいの透明なアクリルの立方体の中で行われる一種のパウンスジャグリングで、パウンスの経験者が担当します。

私達のパフォーマンスは1月からず～っと変化し続け、お互いの呼吸を見つけながらいつの間にか半年が過ぎた、という感じです。

#### 6. ドーム以外での仕事

ドーム以外でも全員でショーをやったり、何人かがGandini Jugglersとして仕事をうけたりします。

例えば、ヨークで行われたBritish Juggling Conventionでは、ドームのルーチンを元にクラブ、リング、ボールを披露しました。

また、フランスで行われたフットボールの国際試合では、エンターテインメントのひとつとして、場を盛り上げるためのジャグリングパフォーマンスをしました。

ソロで一斉に張り切ってやったり、数人または全員でのパスをしてみたり、観客がものすごく興奮していたので、そんな中でのジャグリングもまた気持ちの良いものだ、と思いました。

8月、10月そして11月にもショーの予定があります。(8月はバービカン劇場、10月はサーカス・スペース、11月はタウンホールの予定。)

#### 7. メンバーについて

Gandiniのメンバーは約12人いますが、途中でメンバーが入れ替わったりしながらも、とても楽しくパフォーマンスをしています。ドームの外で会って、食事をしたり、映画をみたりすることもあります。みんな本当にいい人達です。

#### 8. 最後に一言

ロンドンに来たら、ぜひ、見に来てほしいと思っています。リハーサルで準備していたショーとはだいぶ違った形になりましたが、やはりGandiniジャグリングの独特のスタイルを感じる事が出来ると思います。

GandiniのWebSite <<http://www.gandini.dircon.co.uk>>

[徳重 朋子 <tomoko534@aol.com>]

#### 《編者注》

1. ミレニアムドーム；  
ミレニアムを祝うテーマパークとして、ロンドン・グリニッジ北部に建設された。  
総工費約7億6千万ポンド(約1,350億円)で、広さは東京ドームの倍。  
新時代を迎える人類の歩みとその未来がテーマで、14のゾーンが設けられ、地球環境・科学などの歴史を紹介している。

2. rec.juggling；  
下段の電腦空間「ネットニュース」の解説を参照。



## 電腦空間 Juggling on Cyberspace

### 【ネットニュース】

インターネットで利用することのできる世界的規模の電子掲示板のことで、多数の相手とメッセージを交換することができます。

ユーザーが掲示板にメッセージ(記事 article)を書き込み、他のユーザーがそれを読むことで情報を共有・交換します。

メーリングリストでも多対多のメッセージ交換は可能ですが、ユーザーはあらかじめメールアドレスを登録する必要があります。

一方ネットニュースは自由参加型のシステムで、事前に登録しなくても読み書きが可能で、記事を書き込むことを投稿(post)、読むことを購読(read)と言います。

あらゆる話題について情報交換や議論が行われており、話題ごとにニュースグループというものが作られています。

グループの数は数万ほどあり、ジャグリングに関しては、"rec.juggling" というグループで扱われています。(ただしこのグループは英語が使われています)

ネットニュースを読み書きするためのソフトは数多くあり、最近ではブラウザにも収められています。

## 【JAフェスティバル】

by 石川健三郎

ボンジュール!

今年のIJAのフェスティバルはカナダはモントリオールの大学UQAM(ユークアム)にて、8月の1日から6日までの5日間の日程で開催されました。

とは言うものの僕が現地には行ったのは1日の夜の11時頃...。一日目の催し物は全て見られませんでした。

ちなみに初日はルディー・ホーン(Rudy Horn)のIJAのヒストリカル・アチーブメント・アワードの表彰とマイケル・ロウジエ(Michel Lauziere)のショーがあったそうですが、当然見られるはずもなく、取り合えずジムに行ってみる。

人が少なかったので取り合えず泊まる部屋へチェックイン。部屋はジムのすぐ上でUQAMの寮。と云えるのだろうか?一般の人でも泊まっていたような気がする。

部屋の中には日本人にも小さく感じられるシャワーとトイレとレンジと冷蔵庫がある。まあ、一人で45泊するなら我慢できる感じ。明日に向けてベッドに入る。

さて、IJAの2日目。実質初日。

ジムの入り口で申し込みを済ませTシャツやプログラムなどを手にする。Tシャツのデザインはちょっと昔を感じさせる可愛い感じ。悪くはないね。

さてさて、ジムの中に入るとそこには見慣れた顔がある。お店もある。ワークショップのタイムスケジュールをチェックしてみるが、今年のワークショップは少ない。そう言えばお店の数も少ないなあ。何て思うと参加している人数も少なく感じられるのは、ジムが地下にあるために外が見られる窓が無いからなのかなあ。

2日目の夜はユース・ショーケースといふ歳から15歳までで構成されたジャグリング・チームのショーが7時半からあった。

その前に腹ごしらえをと思って、近くにあったベトナム料理屋でベトナムラーメンを食べる。モントリオールという土地柄、ベトナム料理屋が多い。

近くにチャイナタウンもあるがチャイナタウンと言ってもベトナム料理屋の看板が目立った。中華料理とベトナム料理があれば食べ物への心配はなし。大好物のベトナムラーメンで腹ごしらえをして、いざショーへ!

子供がやるショーと言ってもやることはなかなか大したことをする。パッシングにしろなんにしろ上手かった。みんながみんなかなりのレベルだった。こういったショーを見るとJAの底辺の広さや奥深さを感じさせられる。

3日目もこれと言ったワークショップもなく、オークションがやっていたので参加して、Jugglers Parkのスイットをゲット! 目新しい道具を探すのが今年はお店が少ないので、買い物への楽しみは半減...。この日はショーも無いので、せっかくのモントリオールと言うことで観光をした。

UQAM周辺は若者の集まる場所で生活感がある。夜でも多くの若者で賑わう場所だ。観光をしたのはオールド・モントリオールというところでUQAMからは歩いて行ける距離。ここは観光化されていてとても綺麗だった。モントリオールに来たっ! て感じがする。

次の日はみんなが楽しみのチャンピオンシップ。

予選に参加した人も多かったらしいが、本選も多い。ジュニア、チーム、インディビジュアルと言った順番で演じられた。



Jasonさんと

審査の基準となるのはテクニック6、パフォーマンス4と言った割合で、5,6人の審査員が審査する。ここでも感じたのはジュニアのレベルアップ。まだ10代だといふのにかなりのテクニシャン揃い。将来が楽しみ。

やっぱり良い環境だと才能は花開きやすい。僕がジャグリングを始めた頃と思えば全く羨ましい限り。他はまあまあな感じ。

'98にチャンピオンになったJason Garfieldは今年も参加したが、一番お客さんを弗かせ、最後はスタンディング・オベーション。と云うものの、Juggling Master2000の印象が強いためジムで練習する彼には気軽には話せない...。本当のJason Garfieldはジョークが好きで優しい?

全体的なチャンピオンシップの印象はチームとインディビジュアルに関して言えばそれ程度肝を抜くようなパフォーマンスは見られなかったが、ジュニアのレベルアップは注目に値する。

とにかく一晩に20組近いパフォーマンスを見るわけだから、全てを覚えている訳がない!!

最後の晩はIJAでの一番の楽しみのカスケード・オブ・スターズ・ショー!

今年 Cirque du Soleil のディレクターを務めたことがある人がまとめたらしい。が、が、が、開けてびっくり。今までで最低のショーだった。

パフォーマーに対して失礼だが、それ以上に客に対して失礼だ。何がやりたいのか? 魅せたいのか? 目玉なのか? さっぱり分からないし、ジャグリングのパフォーマンスも少なすぎたし、スペシャル・ゲストのパフォーマンスも無かったし。

本命、メインイベントはこの後出てくるんだな、なんて思いながらあまりにも退屈なステージにウトウト。お陰で寝不足を解消できました。ショーが終わった時モロの中は「??? これで終わり???」すっごく消化不良な夜であった。

今年のIJAのフェスティバルはアメリカ以外と言うことで、勝手に違って規模が小さくなったのだろうか? と勝手に推測する。来年はウイスコンシン州のマジソンと言う町であるらしいが、日程はまだ未定らしい。来年こそ頼むぞIJA!

それにしても雲呑麺とベトナムラーメンは美味しかったなあ...

オポワー!

[石川 健三郎 <kenchan2@gol.com>

WebSite<<http://www2.gol.com/users/kenchan2/>>]



# 明日のために

## 【読んでフムフム、言われてギックリ】

私自身はまったくのアマチュアで、パフォーマーなどといえるものではなく、せいぜいが宴会の余興係ですが、「良い芸をするためにはどうすればよいか？」と自分なりに考え続けています。

いろいろ経験を積んだり、本を読んだりしているうちに、「心に残る一言」なるほどと思う教訓」というものにあちこちで出会いました。そのうちのいくつかを紹介させていただきます。

『パクったジョークがうけると分かった後で、それを捨てるのは難しい。』

It's hard to replace a stolen joke once you find out that it works in your routine.

……Daniel Holzman (The Juggler's Little Instruction Book の教訓第281番)

パクリ、つまり他人が使っているジョークや演出を盗むことに対する戒めの言葉はいろいろありますが、一番説得力があると思ったのはこの一言です。

パクリがなぜ悪いかはわざわざ説明するまでもないでしょう。

観客にうけるジョークや演出というものは一朝一夕に作り上げられるものではなく、時間と労力をかけて練り上げ、取捨選択して作り上げられるものです。

つまり、立派な知的財産であり、プロにとっては飯の種です。

アマチュアにしても、自分が考え出したものを人に真似されて面白い人はいないでしょう。

パクリことによって、元ネタを考えた人がこうむる損害は目には見えません。

しかし、同じ観客がパクった方を先に観て、パクリられた人を後から観た場合を考えてください。爆笑を引き起こすジョークも斬新な演出も、二度目に見たときには、最初のときのインパクトは失われてしまいます。

場合によっては、パクった人の方をオリジナルと誤解してしまう恐れすらあります。そして、パクリが繰り返されると、そのネタは「誰でもやってる、ありふれたネタ」になってしまい、商品価値がなくなります。最初に考えた人にとっては大損害です。

この警句の鋭いところは、ただ簡単に説教がまく「パクリはやめよ」と言うのではなく、「一度パクリとやめられなくなるから、最初からそんなことはするな」と忠告しているところです。

軽い気持ちで他人のジョークや演出をパクってみたら、それがものすごく観客にうけたとしましょう。そうしたら、次もそれを使い続けるのは当然の流れです。

うけるかうけないかが収入の多少に関わってくれば、なおさら捨てられなくなります。ましてや、パクったネタに合わせて演技の他の部分を組立てて、ルーチンができあがってしまった後では、もう絶対に捨てられません。一種の呪いのようなものです。

でも、見る人が見れば、「これは誰々のパクリ」と分かり、パクった方には「パクリ屋」「壺流」のレッテルが貼られてしまいます。

そして、パクったネタに頼っているようでは、そのレッテルをはがすのは容易なことではないでしょうし、オリジナルをいつまでも越えられません。

そうならないためには、意識的、無意識を問わず、パクリなような気をつけ、自分の頭を使わないでしよう。私自身がパクリと無縁であるとはとても言えませんが、自戒の言葉の1つにしています。

足し算より引き算が大事』

……読み人知らず

どこで聞いた / 読んだ言葉かも忘れましたが、同様な事をいろいろな分野でいろいろな人が言っています。

人前で芸をやり始めると、「もっとすごいことを見せよう」「もっと面白くしよう」と考えて、ついつい「足し算」をしなくなります。

具体的には、いろいろな芸に手を出して種目を増やしたり、クラブの他にナイフやトーチを加えたり、ジャグリングにローラボーラーや一輪車を組み合わせたりします。

もちろん、これらは積極的にいろいろ試してみるべきことであり、とても良いことです。

ところが足し算だけを考えていると

「1つのショーの中にいろいろ入っていて何をやっているのか良く分からない」「次から次へといろいろ出て来るが、時間が長くて飽きてしまう」「どれも中途半端で、結局つまらない」

という「足し算の落とし穴」にはまることも往々にしてあります。

芸がある程度のレベルを超えたら、足し算ではなく「引き算」が大切になるそうです。つまり、自分のショーの内容を吟味して、ショーの内容に一貫したテーマや流れを持たせる。そのために不必要なものは省く。」

「ショーの中で観客から見て同じような芸があれば、どちらかを捨てる。」という作業を行ない、その可能性を常に考えることが芸を磨くための秘訣だということです。簡単なことと思えますが、それまでの惰性やパフォーマーとしてのエゴが入ってくると、口で言うほど簡単ではありません。

この教訓自体は昔から広く言われており、頭では理解していましたが、最近 IJA の会報 JUGGLE で、IJA から表彰された名ジャグラー Rudy Horn の回想録を読んで、「うむ」と唸られました。

Rudy Horn は、高い一輪車の上に乗って、つま先からコーヒークップや皿を蹴り上げて頭の上に積み重ねていく芸の第一人者、達人として有名になった人です。

普通のジャグリングについても並みの腕ではなく、他の一流ジャグラーをして「彼の3ボールは世界一だ」と言わしめるほどだったそうなのですが、9分という限られた持ち時間に演技を収めるために、観客づきの良い他の演技を優先し、3ボールのルーチンをあっさり捨てたそうです。

さらに、一輪車の上で7リングをジャグリングすることも練習ではできていましたが、「一輪車にずっと乗っていると、自分の一番の売り物である、一輪車の上でのコーヒークップの芸のインパクトが薄れてしまう」と考え、一輪車の上での7リングを実際に演じたことはありませんでした。

これこそまさに引き算の極みであり、名人、上手というものは凄まじいものだと思うされますね。

「お前さあ、今日は調子が悪いとか言うなよ。観てる人はお前が凄いと見て観ているんだから。」

…… K君

これは「えらい人」の一言ではなく、私が高校時代の友人 K君から言われたきつい一言です。

もう5年くらい前でしょうか。当時は身の回りに結婚式が多かった関係で、毎月のようにあちこちの結婚式やパーティーに招かれ、余興をやっていました。おかげでそれなりの経験を積み、芸の種類も増え、人前で演じることにそこそこ自信がついてきた頃でした。

余興を終えた後で自分の席に戻ってきて、周りに居た友人、知人、あるいは初対面の人から「すごいね」「面白かったあ」とほめてもらったのですが、自分では多少の失敗があったと思っていたので「いやあ、今日は調子が悪くて、もう少しうまくできると良かったんだけど。」と言ってしまったのです。

ほめられたことに対する照れや、良い意味での謙遜もあったのだと思いますが、自分が思った通りにすべての芸をできなかった多少の無念さや練習ではもっとうまくできるんだ、俺の芸はこの程度じゃないんだ。「みたいな芸をする側のエゴが出ていたような気がします。

私の言葉の裏にあった不遜な気持ちを嗅ぎとったのかどうかは、今となってはわかりませんが、K君はかなり強い調子で、上記のようなことを私に言いました。

確かに演者である私が「今日は調子が悪かった」と言ったら、「面白かった」と思っている観客は「面白くも思っていない」「なんだ、そづなのか」と、せっかくの愉快的な気分を水に注がれます。

ましてや、出番の後の自席ではなく、ステージの上で「いやあ、今日は調子が悪くて申し訳ない」などと言えば、たとえ冗談だったとしても観客は「自分は駄目な芸を見せられているのか」と思ってしまい、しらせてしまうはず。そもそも、余興を任せてくれたパーティーの主催者(新郎新婦)にも失礼なことだとあとあと気づき、反省させられました。

それからというもの、その日の調子が良くても悪くても、観客から「面白かった」と言われたら、にっこり笑って素直に「どうもありがとうございます」と答えるようにしているのは言うまでもありません。

K君の一言があつてから数年経ち、マジックの世界のえらい人が、本質的に同じ事を言っていることを知りました(「いっさいの弁解は無用です。松田道弘、観客の前では世界一のマジシャンとしてふるまえ。」出典失念)。

エンターテインメントの世界とはまったく無縁であるK君が、ひとつの真理を言い当てていたのです。観客とは本当に怖いものであり、ありがたいものですね。

[西川 正樹 <nishi-m@tkf.att.ne.jp>]



## ジャグリングと私

### 【川上紀子さんの場合】

私がジャグリングの面白さを知ったのは、テレビで「大道芸ワールドカップ in 静岡」の放送を見た時でした。こんな楽しい世界があるのか、と感動したのを覚えています。

そして、ジャグリングが私の身近なものとなるきっかけは、会社を辞め、ある船旅に参加したことです。

ピースボートというNGOが、国際交流の船旅を企画、運営しています。私は、1998年10月から1999年1月までの約3ヶ月間、地球一周の船旅に参加しました。

世界各地を自分の目で見、感じる事ができた経験は、私にとって一生の思い出となり、また船内で出会った多くの人たちも、私の大切な宝物となりました。

Tom Broganもそのひとりです。

イギリス人のトムは、スタッフのひとりとして参加していました。彼は自分の技術を生かし、ジャグリング教室を開いていて、私はそこに参加していました。

スポーツジムの前のデッキに集まり、時々揺れる船に足をふらつかせながら、仲間とカスケートを練習した日々が、今もなつかしく思い出されます。

目の前でトムが5つのボールを見事にカスケードするのを見た時、「私もいつかこんなふうになりたい...」と思ったものです。

15才のとき、テレビでジャグリングのショーを見てジャグリングをはじめたというトム。半年で5つのボールを使いこなしたというのだからびっくり。

21才のときには、ロンドンにジャグリング用品のお店を開いたそうです。いまトムは、パントマイムを学んでいると聞いていました。彼がすてきなパフォーマーになれるよう祈っています。

最近、私は練習をさぼっていました。ボールたちは、私の部屋のインテリアと化しつつあります。

心をいれかえ、また練習にはげみましょうか。

[川上 紀子 <priver@bd.mbn.or.jp>]



# サークル紹介

このコーナーでは、全国各地のジャグリング・サークルを順次紹介していきます。

今回は『トスライフ tossLife』の紹介です。

また日本ジャグリング協会のジャグリングクラブ紹介のページ<<http://www.juggling.gr.jp/>>にも国内の多くのクラブが紹介されています。

ジャグリングクラブ tossLife (東京都)・・・本号

<<http://www.naranja.co.jp/tosslife/>>

大阪大学ジャグリングサークル Patio (大阪)・・・8号

<<http://patio.wo.to/>>

京都大道芸倶楽部 Juggling Donuts (京都)・・・7号

<<http://juggling-donuts.org/>>

福岡ジャグリングクラブ FJC (福岡)・・・6号

<<http://zodiac30.cse.kyutech.ac.jp/ooshige/Juggling/>>

筑波大学附属駒場中学・高等学校ジャグリング同好会

筑駒Jugglers (東京)・・・5号

<<http://www.geocities.co.jp/Berkeley/1242/>>

所沢ジャグリングクラブ JUGFLY (埼玉)・・・4号

<[http://www2c.airnet.ne.jp/ichiro\\_t/juggling/jugfly/](http://www2c.airnet.ne.jp/ichiro_t/juggling/jugfly/)>

綾瀬ジャグラーズミーティング JAM (神奈川)・・・3号

<<http://www.geocities.co.jp/HeartLand-Sumire/9108/>>

ジャグリングクラブ マラバリスタ (東京)・・・2号

<<http://user.ecc.u-tokyo.ac.jp/g940656/index.html>>

ジャグリングサークル JUG (大阪)・・・1号

札幌ジャグリングクラブ (北海道)

<<http://www.geocities.co.jp/HeartLand-Sumire/2690/>>

北里大学獣医学部産学部ジャグリングクラブ (青森)

<<http://www.geocities.co.jp/CollegeLife-Labo/5397/>>

ジャグリング友の会 (東京都)

<<http://www.hi-ro.com/sin/>>

小平ジャグリング倶楽部

<<http://www.mailhost.net/masaki/kjc/>>

横浜大道芸倶楽部 YDC (神奈川)

<<http://www.01.246.ne.jp/yuji-k/>>

市原ジャグリングサークル JugJug (千葉)

<<http://www3.plala.or.jp/jugjug/>>

千葉大ジャグリングサークル ポッサム

<<http://www3.plala.or.jp/jugjug/possum/>>

静岡大道芸サークル WAPS (静岡)

<<http://www.bekkoame.ne.jp/ro/tomi/waps/>>

New Japan Juggling Club (愛知)

<<http://www.cc.utah.edu/nhf13960/craig/home.html>>

金沢大学ジャグリング&マジックサークル JMC

<<http://www3.et.tiki.ne.jp/conan2000/>>

福井ジャグリングチーム FJT (福井)

<<http://bishop.fuis.fukui-u.ac.jp/nishio/fjt/>>

大津ジャグリングクラブ (滋賀)

<[http://www.biwa.ne.jp/torisan/fr\\_juggling.htm](http://www.biwa.ne.jp/torisan/fr_juggling.htm)>

「人生投げて 玉投げて 今日も誰かがトスライフ 明日も投げますトスライフ」

tossLife とはジャグリングクラブである。

つまりサークルである。

では、どんなサークルなのかというと.....。

## 1. お金のかからないサークル

板橋区の小学校の体育館を無料で借りているので、会費はなし。

電車賃、もしくはガソリン代、あるいは自転車をこく労力を惜しまなければ、参加するのに費用はかかりません。

ただし、興味本位で参加したつもりが、ハマってしまってジャグリング道具を買いすぎて首が回らなくなってしまっても、tossLife では一切責任を負いません..... というくらいにジャグリングは面白いものなのです。

## 2. 気が向いた時に行けばいいサークル

練習時間はその日によって長かったり短かったりしますが、別にいつ来ていつ帰っても構いません。

別に「さあ、始めるよー! 」と言ってその日の練習が始まるわけでもないの、遅刻 & 早退、クイタンもアリのアリアリです。

## 3. ジャグリングがうまくなるサークル

最初はへたつぱいの集まりでしたが、創設メンバーもジャグリング歴半年を過ぎ、初心者の方には教えられるようになりました。

さらに、うれしいことに、ベテランの方々も遠くから参加してくださるので、レベルはばちばちあがってきています。

## 4. 誰でも参加できるサークル

設立当初は20代中心のサークルになるものだとして創設メンバーは勝手に思っていました。現在では平均年齢はその日によってバラバラ。

中学生に占拠される時もあるれば、中年男性の集いと化す時もある.....。

遠くは横浜、群馬、茨城などから遊びに来る方もいます。

しかし、残念ながらガングロ女子高生は今のところいません。

どうも男性のほうが多いようですが、コンタクトジャグリングやリングジャグリングなどは、女性がやるとこれまた美しいのではと思うのですが.....。

## 5. 池袋から結構近いので行きやすいサークル

練習場所の弥生小学校は、池袋から東武東上線に乗って中板橋駅まで7~8分。下車徒歩3分という便利なアクセス。

車で来て3~4台なら駐車できるし、コインパーキングも近くにあります。そういった周辺の施設 & お店情報などもホームページで紹介していきたいと思っておりますが.....。

## 6. 参加したい方へ

参加資格は一切ありません。  
お金もいりません。道具も貸します。(少しだけ)  
見るだけでも大丈夫。冷やかしか大歓迎!  
もちろんプロ・アマ問いません。

運動不足にダイエット、ストレス解消、暇つぶし、夜逃げ、リストラ、エトセトラ。どんな理由でもかまいません。若いも若きも男も女も、社長さんもヒラ社員もフリーも学生さんも僕もあなたも彼も彼女も みんな一緒に Let's tossLife!!

練習場所：  
板橋区立弥生小学校体育館 (東京都板橋区弥生町19-1)

交通：  
池袋駅から東武東上線に乗り中板橋駅下車。南口より徒歩3分

練習日時：  
毎週水曜 (18:30 ~ 21:00) と日曜 (15:30 ~ 19:30)

月によっては練習の無い日や時間が異なる日があります。ホームページを確認して頂くか、代表者までご連絡ください。

代表者 繁岡 賢朗 (シゲオカ マサアキ)  
E-mail zoe@lemon.plala.or.jp  
Tel :090-1452-1128  
WebSite<<http://www.naranja.co.jp/tosslife/>>

## 7.番外編

「なんでいの～？」

すべてはそのひと言から始まった...  
tossLifeの代表と副代表をそれぞれ努めるシゲオさんと  
ヨシヲさんにクラブ設立までのいきさつをつかがいました。

シゲオさんとヨシヲさんはどこで知り合ったんですか？

ヨ「池袋の東急ハンズです」

シ「去年(1999年)の12月の最初の土日にジャグリングの  
実演販売があったんです。テレビでジャグリングを見て  
『おもしろそうだな』って思って、玉買った矢先のことだっ  
たので、うまい人に教われるかなって」

ヨ「ボクはたまたま買い物に行ったんですよ。そうしたらつ  
いつい引き込まれてしまって、目的のものも買わずに玉  
買って帰ってしまいました(笑)」

シ「2日目も朝から参加したらこの男が『なんでいの  
～!?』と話しかけてきたんです」

ヨ「だってまたいるとは思われないじゃないですか。実演の  
お兄さんに弟子入りしたのかと思ったよ。金髪だし、シゲ  
オはまわりの人よりうまかったから目立ってた」

シ「その日はそのまま夕方までハンズの前でジャグッ  
て」

ヨ「実演のお兄さんが昼休みに行っている間も、メシ抜き  
でジャグって……」

シ「そんでそれぞれの連れも含め4人で居酒屋に行っ  
たんです」

ヨ「店出てからも、暗～い公園でジャグって」

シ「今から思えばそれが第一回トスライフ練習だったん  
です」

「そこからジャグリングクラブを作ろうという話になった  
んですね。」

ヨ「その日はまあ、『また玉投げて遊ぼうね～』ってかん  
じて別れて、それからしばらくは公園とかでやってたんだ  
けど……」

シ「もちろんパフォーマンスしてたわけじゃないですよ。2  
人とも『スケートが200回できた、足の下が連続ででき  
た』ってそれくらいで大騒ぎしてたんですから」

ヨ「で、どんどん寒くなってきて、やっぱ雨風はしのげると  
ころで練習してえな～って」

シ「体育館！体育館借りるなら団体として登録しないと、  
登録するためには名前考えないと」

ヨ「そんな流れでいつの間にか、名前考えてたね」

シ「考えたね～、名前」

ヨ「やきねぎとか、空豆シャワーとか、玉仙人とか？」

シ「いや、ジャグホリックとかスピニングアースとか真面  
目なもの出たじゃん」

ヨ「とにかく名前会議で何回メシ喰ったか分かりません  
ね」

そしてtossLifeに決定したわけですね。

ヨ「おし、これだ！ってかんじでもなかったんですが……」

シ「考えるのに疲れたところに思いついたのがtossLifeだっ  
たってだけです」

ヨ「『ジャ』を頭に付けたくなかったんですよ。これからジャ  
グリングクラブも増えるだろうし、あいうえお順に並んだら  
サ行ばっかいっぱいになるじゃないですか。それで『ト  
スってなんかよくなえ?』と」

シ「トスの後ろに誰がライフをつけたかは忘れましたが、  
ほぼ同時に『人生投げて、玉投げて～』というキャッチも  
生まれて」

ヨ「そのキャッチで盛り上がりってみんな『決まり決ま  
り!』ってなったんです」

シ「けど、あとで冷静に考えてみるとtossLifeってなんか  
どっかの介護保険事業者みたい。ちょうどネオ的にもタイ  
ムリーだし……」

ヨ「だから東京投玉組合のほうがいいって言ったじゃ  
ん!」

シ「いや～、組合はねえ?」

ヨ「だったら連合でもいいよ。東京投玉連合!」

シ「暴走族じゃないんだからさ(笑)」

[ヨシダ 智秀・繁岡 賢朗]



by 高橋さとみ

<luna@jttk.zag.ne.jp>



# レポート

## 【ハンガーマンの夏の思い出】

by ハンガーマン

はじめに：

今夏海外で燃えているハンガーマンより暑中見舞いのお手紙を書きました。ご本人の了解のもと、ここにその手紙を公開し、彼の海外での奮闘ぶりをご紹介します。

ハンガーマンは今年も海外出張に来ています。ここアヴィニョンから途中報告いたします。

6月27日に日本を出てアムステルダムに2泊し、市内観光をしました。ここは5年前に2度大道芸をしたことがあり、海外での初の舞台でもあります。

大道芸はライチェム場で夕方頃からやっているのですが、ジャグラーばかり5~6人いましたが、少々肌寒くもあり、盛り上がり欠ける回もありました。

それほど高度なことをする芸人はいなくて、おしゃべりが多くなかなか芸をしません、大体約30分位でエンディングです。

各々まず最初に音楽をかけて客の注意を引くのですが、とにかく僕は薄着のため寒さと長いおしゃべりに耐えられませんでした。

今年のヨーロッパは異常気象でしょうか、ここアヴィニョン7月16日までとても寒かったです。

さて話を元に戻すと、6月29日にマドリッドへ移り、その日から働き始めました。最初の二日間はあきまへん！！

いきなりまたディアボロ事件の発生です！！右目にディアボロが当たり"赤目のハンガーマン"になってしまいました。何の影響もないのですが、見た目目がちょっと変になりました。元々変わったのはさておき・・・

7月1日(土)はまずまずでしたが、翌日は場所取りに負けたせいもあり、パッとしません。狭い場所の上、少し陽も当たり・・・

このレティーロ公園は土・日だけ盛り上がりがありますが、特に日曜日にはジャグラー、ミュージシャン、物売り、絵描き等が多すぎます。ですからチップも少なくなるのかも知れません。

平日には即興詩人でしょうか、詩を語る人がいて、時に拍手が起こったり静かな夕暮れでやりやすいのですが、全体的には観客も減るのです。

ということで5日間だけ働いて、深夜バスと列車でアヴィニョンへ移動しました。乗り継ぎミスの待ち時間も含めて十七時間半もかかりました。

着いてからの2~3日は暑かったのですが、強風が吹き出し肌寒くなり、夜は半ソデ・半スポンの僕には涼しすぎました。

10日の月曜日には朝から小雨が降ったりやんだり、不安定な天気だったので、休みにしてサーカスを観に行きました。5年目にして全く一日中働けなかったというのは、この日が初めてでした。

サーカス学校か何かの学生の終了公演のツアーらしいのですが、20~28才位の芸人でいわゆるヌーボーシルクという感じでした。踊りが多かったように感じられ、開演前のビールのせいか少々眠かったです。

そうそう大道芸ですが、低い気温のおかげでとてもやりやすく動き者になってしまいましたが、ついに風邪をひいてしまいました。これも初めての出来事です。

取り立てて大したことは起きず起こさず日々無事な生活を営んでいますが、とにかく風の強い日が多く、そんな時でもハンガーマンはディアボロを一杯飛ばすので、あっちに行ったりこっちに行ったりで大騒ぎです。

が、観客の中へ飛び込んでみても皆うまく避けてくれて、それもまた楽しいです。もうハンガーマンの危険な芸に慣れたのでしょうか！？

また普通の暑さに戻った18日に調子にのって太陽の下で"暑さの中の大道芸"に挑戦しましたが、無惨な結果に終わりました。おひさまとは、ケンカしちゃうかん！！ということです。

さて今年のアヴィニョンには多くの日本人芸人が来ていました。芸人や関係者を含めて最高時11名が同じキャンプ場に滞在していました。この先まだ何が起きるか分かりませんがとりあえず途中報告まで。

8月には初めてエジンバラに10日間ほどの予定で行くつもりです。またその気になったら続編を書きます。

[7月22日/ハンガーマン]

今は8月4日にエジンバラに来て大道芸をしています。

色々なフェスティバルがこの街で行われていて、ストリートパフォーマンス、大道芸もそのフリンジとして大きな通りを中心に11:30~20:00位まで3ヶ所で許可制の元でやっていますが、芸人も多く1日1回位だけです。

自由な場所も1ヶ所あり、そこがかけもちです。アヴィニョンと比べ達者というレベルが高い芸人ばかりいて、すごく面白いです！！

お客も積極的に楽しむ人々が多く、しゃべりで盛り上げ上手な芸人が多いのも特徴ですが、さらに芸もしっかりしているのでチップも良いようです。

まずは簡単なお知らせまで。もうすぐ帰国です。

[8月15日/ハンガーマン]



edinburgh festival fringe 2000



# CD-ROM紹介

## MEDIA CIRCUS -The Juggling Tutor-

制作 :Media Tainment Ltd.

<<http://thejugglingtutor.com>>

価格 29.95米ドル

環境 :windows 95,98 or NT(SP3)

Pentium 120Mhz

16MB RAM(32MB推奨)

4倍速CD-ROM

購入 :(私はBrian Dubeで購入)

8、9年ほど前ででしょうか、とあるマジックショップから初めてジャグリングの教本(Juggling step-by-step)を購入し、テニスボールで練習し始めた時のことを思い出しました。

ジャグリングのことは全く何も知らない白紙状態だったので、イラストを見ても解説を読んでも、カスケード(cascade)というボールの動きが、今ひとつイメージ(映像)として頭の中に浮かばず非常に苦労しました。

どんなトリックか実際にイメージとしてとらえるには、人から見せてもらうのが一番ですが、なかなかそれも難しく、そんな時にはビデオは確かに役に立ちます。

つまり新しいトリックを覚えるにも本だけではなくビデオも併せて見ると理解も早いのですが、ビデオデッキはコマ送りの機能がないとこれまた辛いものがあります。巻き戻しも面倒くさいね。

今は書籍、ビデオのみならずコンピュータアニメーション等、様々なツールがジャグリングの習得を手助けしてくれますが、MEDIA CIRCUS・・・これはそんなツールのCD-ROMバージョンといったところです。

画面上では左側にトリックに関する説明やアドバイスがあり、右側にそのトリックを演じている演者の動画像が出ます。

画像はひとつのトリックで数十秒程度ですが、繰り返し再生はもちろんスローモーション再生も可能です。

内容は以下の通りで、なかなか充実していますね。( )内数字は紹介しているバリエーションの数を表します。

### Three-ball Juggling

- 1.The basic patterns (8)
- 2.Body bounces (4)
- 3.Two balls in one hand patterns (13)
- 4.Under-the leg & Over-the -shoulder (6)
- 5.The windmill & mmills mess (7)
- 6.Chops (3)
- 7.The shower (3)
- 8.Fancy starts & finishes (9)

### Four-ball Juggling

- 1.The basic patterns (8)
- 2.Two ball throws (7)
- 3.Advanced patterns (7)
- 4.The three to four ball pickup (2)

### Five-ball Juggling

- 1.The basics (5)
- 2.Taking a rest (1)
- 3.Three ball patterns with five balls (2)



### Club Juggling

- 1.The basic patterns (8)
- 2.Kick ups (4)
- 3.Double spins (3)
- 4.Two clubs in one hand (2)
- 5.Under-the-leg and between-the-legs (10)
- 6.Over-the-shoulder tricks (6)
- 7.The mills mess (2)
- 8.Chops (2)
- 9.Club balancing tricks (11)
- 10.Flourishes (3)
- 11.Three clubstarts (4)

### Devilstick

- 1.Getting started (4)
- 2.Starts and pickups (5)
- 3.Throwing and catching (6)
- 4.Countinuous spins (4)
- 5.Under-the-leg (2)
- 6.Single sticking (3)
- 7.Some advanced tricks (4)

### Diabolo

- 1.Geting started (5)
- 2.Getting the diabolo into the air (1)
- 3.Some basic tricks (6)
- 4.Spining the diabolo faster (4)
- 5.tricks around your leg and arm (7)
- 6.Advanced tricks (9)

### Cigar Boxes

- 1.Basic tricks (6)
- 2.Letting go with one hand (2)
- 3.Letting go with both hands (3)
- 4.Under-the-leg (3)
- 5.Changing the order of the boxes (3)
- 6.Throwing the middle box (3)
- 7.A fancy start (1)

いろいろなツールが出てきてはいるのですが、イラストや映像が"観客の目線"から描かれている(撮影されている)ので戸惑います。

つまり鏡を見ているようなものですから、右手と左手を頭の中で自分の手に合うように置き換えたりすることがありませんか。

マジックやバルーンの教則ビデオには、"演者の目線からの映像"で解説しているものがあります。ジャグリングの場合は扱う物体が宙を舞い、時には演者の視線から外れることがあるので、表現として難しい部分は多々あるとは思いますが、一考の余地はあるように思います。

まだまだジャグリングの教本や教則ビデオには改良の余地があります。

[安部 保範 <[abesan@dream.com](mailto:abesan@dream.com)>]



# ビデオ紹介

## 【Lazer Vaudeville】

制作 Lazer Vaudeville

価格 20.00米ドル

時間 50分

購入 Lazer Vaudeville

<<http://www.lazervaudeville.com>>

(私はSerious Jugglingで購入)

1999年3月コタ州のthe Ellen Eccles Theatreでのライブ映像です。

Lazer Vaudevilleは、ジャグリング、マジック、アクロバット、コメディなどいわゆるパフォーミングアートの数々をステージショーとして観せる団体で、1987年から全世界をツアーで回っています。(1996年には大阪にも来たことがあるようです)

出演メンバーはCindy Marvel、Carter Brown、Reid Belstockですが、現在はReidの代わりにJeffrey Daymontが入っています。

Cindyは、12才からジャグリングを始め、1984年にIJAフェスティバルのJuniors Championshipに出場し、1989年のIJAフェスティバルでは女性として初めIndividual Championshipで見事優勝に輝きました。

その後、The Pickle Family Circus、あるいはDarn Good & Funny(DG&F)というチームで活躍しました。ちなみにDG&Fは1994年IJAフェスティバルのTeam Championshipで優勝しています。

Carterは大学時代にボードビルに興味を持ちアートについて研究し、リングリングサーカス等のサーカスでクラウンやジャグラーとして活躍した後に、自らの考えを实践するためにこのLazer Vaudevilleを設立し、Cindyと昨年婚約したようです。

ReidはIJAフェスティバルの常連で、1995年にはチーム部門(チーム名:Tripp and Fall)で、1996年には個人部門で出場していて、ビデオで演技を観ることが出来ます。

JeffreyもIJAフェスティバルの常連で、1983年から参加していて、1992年のシニア部門と1996年の個人部門の演技は同じくビデオで観ることが出来ます。

さてビデオの内容ですが、大変見応えがあり充分楽しめます。

10種ほどの演目が収められていますが、演技はもとより音楽や照明も素晴らしく、特に照明はレーザー光線やブラックライトによる蛍光等で効果を発揮しています。

ジャグリングでは見せ場になると会場は暗転になり、ブラックライトによりクラブ等の物体が白く光りとても幻想的です。

Cindyは単独ではボールとクラブを披露します。IJAの雑誌JUGGLE(Nov/Dec 1999)に彼女についての特集記事があり、その中で「練習ではタイミングをとるためにメトロノームを使う」と書いてありましたが、正確なリズムで難易度の高いトリックを次々と刻む背景にはそんな練習方法があったのです。

ただうがった見方をすればルーティンに緩急が無く平坦な淡々とした感じを受けがちです。が、彼女の演技は優雅であり詩的ですからあります。とても素敵です。



また彼女は評論活動も活発で、Jugglers' worldやNew York Timesにショーや書籍に関するレビュー記事を多く発表しています。

例えば1993年には早くもGJPについてのレビューをJugglers' world(Winter/1993-94)で発表しています。(現役のジャグラーが評論活動をするのは日本ではあまり例がないですね。)

Carterは、自転車の車輪のリム(輪ぶち)を使ったジャグリングを見せてくれます。投げたり回したり転がしたりと自由自在に操り、ステージショーならではの興味ある演技です。

Cindy、CarterそしてReidの3人では蛍光ポイのスウィング、あるいは"Drumble"という演目はタンバリンのような太鼓とボールを組み合わせ、太鼓でボールをトスした時に音が出て、その音と相まってジャグリングを披露するというユニークな演技です。

またクラブではReidが道化役となりハラハラしながらも笑ってしまう高度なパッシングを3人で見せてくれます。

ただしマジックは、正直言ってイマイチです。(誰が演じているのだろう?)

ブラックライトを利用した"Black Illusion"と言えばオマー・パシャー(Omar Pasha)を思い浮かべますが、彼に比べると現象のメリハリが無いように感じられました。

ジャグリングはエンターテインメントである。

[安部 保範 <[abesan@dream.com](mailto:abesan@dream.com)>]

## 【GJP "Extracts"】

制作 :Gandini Juggling Project (GJP)  
価格 :25.00米ドル  
時間 :85分  
購入 :Gandini Video Productions  
<<http://www.users.dircon.co.uk/~gandini/>>  
(私はSerious Jugglingで購入)

このビデオには、The Gandini Juggling Project (以下GJP)の1993年から1998年にかけての以下の4つの作品が収められています。

1. n'Either Either bothH andD(NEBA) :1993- 1994
2. Caught still/hanging(CSH) :1994- 1995
3. and other curiOus questions(AOCQ) :1995- 1996
4. Septet and Septet/2 :1997- 1998

GJPは1992年にSean GandiniとKati Yla-Hokkalaにより設立され、1993年には振付師でダンサーであるGill Clarkeを迎え、記念すべき最初の作品NEBAを創り上げツアーを開始しました。

ジャグリングといえば、人ができないような事を披露し観客を驚かせて楽しませる芸、という解釈が一般的でしょう。

が、GJPはダンスとジャグリングとの融合を目指し、従来の(伝統的な)ジャグリングの技術のみならず観念をも捨て去り、枠にとらわれずにジャグリングに新しい魂を吹き込みました。

ダンスとジャグリングの融合といえば、例えばMichael Moschenを思い浮かべますが、彼の場合は私としてはやはりジャグリングを観ているという意識があります。そう「革新的なジャグラー」といった位置づけでしょうか。

しかしGJPの作品を観てジャグリングという意識はありませんでした。

ジャグリング作品であるということを否定は出来るのですが、そこにはもちろん高度なジャグリングテクニックは含まれているわけで、正直そういった混乱を頭の中に抱えたままビデオを見終えました。

## 【The Art of Poi】

出演 :Diane Paulger  
制作 :The Beaming Balls Company  
価格 :19.95米ドル  
時間 :34分  
購入 :Home of Poi <<http://www.juggling.co.nz/>>  
(私はBrian Dubeで購入)

"Poi" というのは、片腕の長さくらい紐の一方の先端にボールがひとつ結びつけられているものです。要するに"ボールが付いている紐"のことです。

このPoiを二本用意し、一本ずつ各々片手に握りスウィングさせます。  
元々はニュージーランドの先住民でポリネシア系のマオリ族が発祥のようで、彼らの踊りに取り入れられているようです。

Meteor(流星)やクラブスウィングの親戚筋といったところでしょうか、見た目もよく似ているので、技術的にはそれらと大いに類似点があると容易に推測されます。

このビデオはPoiのハウソウビデオで、かなりの数のトリックを説明しています。  
なんだかやってみたくありません。



舞台構成は立体的であり抽象的・単純化を表現し、かつプロセニウム・アーチ(舞台の額縁)を通して絵を見るような舞台を放棄して、周囲の多方面からの視角に応じられるような、つまり舞台と客席とが二つに分離されることがなく、両者が一体化するような空間を創造しているようにした。

そういう目で観ると、AOCQのWindowという作品は、文字通り大きな額縁を持ってきて、その中でパフォーマンスをするという内容で、ユーモアを感じ非常に印象的でした。

また音楽とダンス(身体的表現)はそれぞれ独立して、音楽につれて踊ることはなく、あくまで抽象的であり前衛的です。

こう書くと何だかジャグラーの人は敬遠しそうですが、必見です！  
このビデオはジャグリングのさらなる新しい世界(可能性)を示してくれました。

純粋にジャグリングという部分だけ追ってもSeptet and Septet/2のクラブパッシングは迫力があります。

ジャグリングは現代アートである。

[安部 保範 <[abesan@dream.com](mailto:abesan@dream.com)>]

ちなみにこのビデオの内容に沿うような形で説明文とクリップ映像が、Poiの事なら何でも分かるWebサイト "Home of Poi" <<http://www.juggling.co.nz/>> に載っています。

従ってDiane Paulgerさんの話が聞き取れなくても、ビデオ映像とこのサイトに掲載されている説明文を利用すれば独習も可能かと思います。(Web上のクリップ映像は分かりにくいです)

ビデオ内容は以下の通りです。

1. Poiの種類/準備運動/持ち方
2. Swinging The Poi  
Butterfly/Giant Butterfly/Alternate Butterfly/Mexican Wave/Overhead Butterfly
3. Intermediate Level  
Chasing The Sun/turning/High Turn/Tuck Turn/Corkscrew
4. Advanced Level  
Forward Weave/Backward Weave/Overhead/Thread The Needle/One each way/one-handed Butterfly

ジャグリングは伝統的民俗芸能である。

[安部 保範 <[abesan@dream.com](mailto:abesan@dream.com)>]

## 【Juggling Master 2000】

制作・監督・出演・編集 : Jason Garfield  
価格 35.00米ドル  
時間 50分  
購入 : Jason Garfield <<http://www.jasongarfield.com/>>  
(私はSerious Jugglingで購入)

早速ですが次の記録を見てください。

7ボール(402キャッチ), 8ボール(66キャッチ), 9ボール(43キャッチ), 10ボール(20キャッチ), 11ボール(14キャッチ)

7リング(400キャッチ), 8リング(102キャッチ), 9リング(45キャッチ), 10リング(20キャッチ)

6クラブ(44キャッチ), 7クラブ(32キャッチ), 8クラブ(8キャッチ)

やれやれ、とんでもないジャグラーがいるものです。

Jason Garfield…… ナンバースジャグラーとして有名な彼は1974年に生まれ、11才からジャグリングを始め、早くも競技会を志向した彼は13才で見事IJA フェスティバルのJuniors Championshipで優勝しました。

途中で6年間ものブランクはあったものの、その後も競技会等で活躍し、例えば1998年にはIJAのIndividual Championshipで優勝、2000年2位という成績を残しています。

IJAのフェスティバルの様子はビデオで販売されていて、彼の演技が収録されている1988年、1990年、1991年、1998年の映像を見比べてまず驚くのは身体の変貌ぶりです。

アイドル歌手のようにほっそりしていた体型が、今や筋骨隆々のまるでオリンピックで見る重量挙げ選手のように変貌しているのです。特に上腕から肩にかけての筋肉には驚きます。

このビデオからは、冗談なのか本気なのか、何だかとても"危ない"彼の世界を垣間見ることが出来るでしょう。

さてビデオですが、前半では1ボールから始まってボールを一つずつ増やしていき、11ボールまでのジャグリングの練習に対するアドバイスを実演を交えながら説明してくれます。  
(クラブでは、アルバートやバッククロスの解説がありません)

彼は最後に4つのアドバイスを与えてくれます。

- 1.Never move your feet.
- 2.Don't try more than you're capable of.
- 3.Master the Flash.

さて4番目は何でしょう? それは見てのお楽しみ。

後半は彼の演技(というかトリック単体)の映像クリップ集です。

ステージ、体育館、部屋、屋外など様々な場所での演技を数多く見せてくれます。ひとつの映像が数十秒程度と短いのですが、ジャグリングをやっている人にとってはナンバースはあこがれであるはずなので、ところどころでも思わず声が出てしまうことでしょう。

ちなみに幾つかの映像は彼のWebSiteでも見ることができます。ただあまりに細切れでかつ内容が"練習風景"といった感じのため、例えばステージ上での演技をまとめた形で観せて欲しかったという不満は残りました。

ところでビデオの最後に流れるクレジットの撮影場所の中に"Japan"が入っていました。来日したことがあるのでしょうか。

ジャグリングは格闘技である。

[安部 保範 <[abesan@dream.com](mailto:abesan@dream.com)>]

## 早めの編集後記

今回も超豪華な執筆陣でお届けすることができました。  
豪華すぎて怖いくらいで、お忙しい中、筆をとっていただいた皆様方には感謝の気持ちで一杯です。

ジャグパルの発行は正直大変な作業ですが、発行するたびにジャグリングのことが好きになり(練習はちょっともしないけれど)、ジャグリングを通して様々なアートにも興味を持つようになりました。  
大変ではあるけれどとても楽しい作業です。

ひとつ確かに言えることは、「世の中、面白いこと一杯あるぜ!」です。

ジャグパルは私という個人が野次馬根性丸出しで、単なる趣味として発行しているものです。  
従って特定の企業、団体あるいはパフォーマー個人には一切関係していません。

ジャグパルはWeb上でも見られます。(Webだと写真等はカラーです)  
紙での郵送が不必要な方はご連絡ください。  
WebSiteジャグパル : <<http://homepage1.nifty.com/abesan/>>

編集発行人 : 安部保範  
住所 : 横浜市栄区公田町424-9 (〒247-0014)  
E-mail : [abesan@dream.com](mailto:abesan@dream.com) Nifty : QGB02014  
WebSite見世物広場 : <<http://plaza4.mbn.or.jp/chansuke/>>



# イベント情報

**サルティンバンコ**  
 東京公演 2000.10/12 ~ 2001.1/28  
 場所 原宿国立代々木競技場オリンピックプラザ内  
 特設テント「ビッグトップ」  
 入場料：一般SS席¥11,000/S席¥8,500/A席¥5,000、  
 全国公演 2001.2/9 ~ 4/8 (福岡・福岡ドーム)  
 2001.4/20 ~ 6/10 (名古屋・ささしまライブ24)  
 2001.6/21 ~ 9/9 (大阪・インスタリア南港)  
 2001.9/20 ~ 11/18 (横浜・みなとみらい121)  
 連絡：サルティンバンコ電話予約センター (tel:03-5283-0288)  
 Web <http://www.fujitv.co.jp/bigtop/top.html>

## [豆知識]

ボールジャグリングを披露するマリア・チョウドウ (Maria Choodo)はロシア出身の16才の少女。両親もサーカスの仕事をして6才からジャグリングを始め、Cirque du Soleilには1999年1月のオーストラリアツアーから参加。サルティンバンコでのルーティンは、Miguel Herreraの時とほぼ同じ。

**ラスベガス・サーカス**  
 期間 9月9日(土) ~ 11月26日(日)  
 場所 野外民族博物館リトルワールド内、野外ホール  
 時間 :11:30,13:30(平日)/  
 11:00,13:00,15:00(土日祝) [各回約40分]  
 休演日 毎週月曜日 (10/9は公演,10/10は休演)  
 公演料 入館料のみ  
 リトルワールド <http://www.meitetsu.co.jp/little/>

**クラウンのいる風景-青のエリア-**  
 日時 9月31日(土)15:00開演/19:00開演  
 10月1日(日)11:00開演/15:00開演  
 受付 開場は開演の60分前  
 場所 六行会ホール(品川図書館地下)  
 (京浜急行「新馬場」)  
 制作出演 OPEN SESAME  
 料金 A席¥3,000/B席1,000円/ペア¥5,500(前売)  
 全席指定・1ドリンクサービス付き  
 連絡 OPEN SESAME (tel:03-3765-1006)  
 Web <http://member.nifty.ne.jp/OpenSesame/>

**planB コメディ・ナイト**  
 日時 9月21日(木)19:30開演  
 場所 planB(丸の内線「中野富士見町駅」)  
 料金 ¥1,000(前売)/¥1,200(当日)  
 連絡 ACC (tel:03-3403-0561)  
 Web <http://www.alpha-net.ne.jp/users/accircus/>

**Dai丸百貨店ソロライブ**  
 日時 10月12日(木)19:30開演  
 出演 Mr.Dai、丸ちゃん  
 場所 planB(丸の内線「中野富士見町駅」)  
 料金 ¥1,500(前売)/¥1,800(当日)  
 連絡 ACC (tel:03-3403-0561)  
 Web <http://www.alpha-net.ne.jp/users/accircus/>

**第23回・大須大道町人祭**  
 月日 10月13日(木) ~ 15日(日) <13日は前夜祭>  
 場所 地下鉄・大須観音駅下車  
 Web <http://www2.starcat.ne.jp/iida/>

**芸人王国**  
 月日 10月14日(土)12:00 ~ 16:00  
 15日(日)11:00 ~ 16:00  
 場所 所沢市民文化センター「ミュージ」中庭  
 西武新宿線 航空公園駅東口下車  
 連絡 むごん劇かんぱにい (tel:045-231-6543)

**江戸太神楽とかつぼれの集い**  
 月日 10月15日(日)  
 時間 13:00開場 - 13:30開演  
 場所 栗橋総合文化会館1Fホール  
 料金 無料  
 連絡 江戸太神楽保存会  
 (tel:03-3813-6220/fax:03-3813-6397)

Web : <http://www.interq.or.jp/www1/kanchang/daikagura/maruichi.htm>

**フィリップ・ドゥクレフ&カンパニー D.C.A.**  
 月日 10月24日,26日,30日 19:00開演  
 10月25日 14:00,19:00開演  
 10月28日 14:00,19:00開演  
 10月29日 14:00開演  
 場所 世田谷パブリックセンター  
 料金 3,500円(全席指定)  
 連絡 世田谷パブリックシアター (tel:03-3813-6220)  
 Web <http://www.setagaya-ac.or.jp/sept/>

**大道芸inシアター2000**  
 日時 10月27日(金)18:30開場-19:00開演  
 28日(土)13:30開場-14:00開演/  
 18:00開場-19:00開演  
 29日(日)13:30開場-14:00開演/  
 18:00開場-19:00開演  
 場所 4Fメディアホール(静岡市伝馬町)  
 出演 ペップ・ブー、マイクロバンド、サンキュー手塚  
 料金 ¥3,500(前売)/¥3,800(当日)  
 Web <http://www.daidoge.com/2000/theater/>

**大道芸ワールドカップIN 静岡 2000**  
 月日 11月2日(木) ~ 5日(日)  
 場所 JR東海道本線・東海道新幹線「静岡駅」  
 Web <http://www.daidoge.com/>

**獅子がある結成記念「小仙と若者達其の六」**  
 月日 11月21日(火)  
 時間 18時開場  
 場所 文京ビックホール 小ホール  
 (営団地下鉄丸の内線・南北線「後樂園駅」、都営地下鉄三田線「春日駅」)  
 料金 ¥2,300(前売)/¥2,500(当日)  
 連絡 江戸太神楽保存会  
 (tel:03-3813-6220/fax:03-3813-6397)  
 Web : <http://www.interq.or.jp/www1/kanchang/daikagura/maruichi.htm>



# 特別寄稿

【Kaja って! ?】

by Kaja

## 1. 略歴

1990年 :クラウンカレッジ卒業。  
1994年 :イギリスのサーコメディア・サーカス・スクール留学。

様々なパフォーマンススタイルを学び、それをきっかけにその後、ベルギー、オランダ、アイルランド、ルウエー等でのパフォーマンスを経験する。

## 2. "Kaja (芸名)"について

名前の由来はイギリスから帰国後も一度外国で仕事をしたくて、何か良い芸名はないかと考えていたとき、日本の狂言にでてくる太郎冠者というキャラクターを思い出し、この太郎冠者というのがクラウンと似ていたため"太郎"を取って"冠者"だけにしました。

"Kaja"それを何回口にしても飽きず、響きが良かったからです。

## 3. サーコメディア・サーカス・スクール

自分のパフォーマンスに大きく影響を与えてくれたのがイギリスのブルストルにあるサーコメディア (Circomedia) というサーカス学校でした。

一年だけの留学でしたが様々なパフォーマンススタイルを学べたことは今でも役に立っています。外国の学校は個人の個性を妻く大切にしたいと思います。

自然な形で自分の良い部分を引き出してくれたのは一番良かったですね。

## 4. サーカスについて

過去アイルランド、ルウエー、ベルギーの3ヶ国でクラウンとしてサーカスを経験しました。一番やりたかったことは毎日ショーができること、それと外国を旅することですね。

サーカスでの自分の役割は幕間でギャグ、ジャグリング、マイム等と短い時間でやるようなやつ。向こうではReprise (リプリーズ)と呼ばれているやつです。

一回のショーの中で出番は4回くらい。契約が多いので毎年のようにショーの内容は変わります。

それと移動が多い。特にルウエーにいた時は、六ヶ月の期間に140ヶ所を回り、ルウエー中をずっと来たりしました。

それでも昔に比べれば数は減ったらしいです。ルウエーの人口は500万人程度、国の面積が日本と似ているくらいといつかいかに少ないか。移動が多くなるわけですね。

ひどいときには一日の間に2回移動することもありました。朝移動、テントを建て、ショーをやってテントをたたくまで夜に移動。

夏になると白夜なので夜もかなりの距離が走れるわけですね。白夜なんて眠れなくて良いものではないですね。



サーカスは本当に特別なところだと思います。様々な国の人が一緒に生活をするわけですから、でも人間国が違っていてもタイプは同じだと思います。日本人にもこういう性格の人もいるよとかね。

そういうことを感じられたのは良い経験でした。

## 5. 3D Radio Sirkus

6月29日にplanBで初のソロライブをやり、これからの方向を考える上で良い経験でした。

やる前は自分にとって何が面白いのか、自分の良い部分は何かを客観的に見られずなかなかそこが難しかったです。

しかしビデオを見てだんだんと自分のやりたいことに近づいていることを感じました。

### < 3D Radio Sirkusの意味 >

- ・3D :観客と演者が一体の空間で立体感があり
- ・Radio :自分のショーには音楽がとても重要なのでRadioは音、リズムを表し
- ・Sirkus :本当のスペルはCircusですが、見た目をちょっと変えてSirkusにしました。

これをつ合わせたのが本当の意味です。

## 6. 最後に

日本ではパフォーマンスというと、マジック、マイム、ジャグリング等に限定されやすいですが、本当はもっと広い意味があると思います。

例えば、演劇、音楽、伝統芸能、能、狂言、歌舞伎、神社に納める踊、歌。各国様々なものがあります。ここに書ききれないくらいたくさんあります。

形は様々ですが、それはパフォーマンスという中の一つの形だと思います。

それに気がつけば形が違っていても本質的には似ている物、違った視点で物を見ることが出来れば色々なアイデアが出てくるのではないのでしょうか。

大雑把ですが、演ずる方、観る側ももっと大きな視点で物をとらえてもらいたい。そうしたらもっと良い物が出来るのではないのでしょうか。

近いうちにまた3D Radio Sirkusのバージョンアップしたものをやりたいと思いますので、観ていない方は次回は是非見に来て下さい。